

鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会胃がん部会 鳥取県健康対策協議会胃がん対策専門委員会

- 日 時 令和4年3月5日（土） 午後2時～午後3時15分
- 開催方法 倉吉未来中心 倉吉市駄経寺町
オンライン開催
- 出席者 20人
渡辺健対協会長、磯本部長、謝花専門委員長
秋藤・大谷・岡田・尾崎・田中・野口・藤原・藤井・三宅・八島各委員
県健康政策課：萬井課長
県健康政策課がん・生活習慣病対策室：坂本課長補佐
健対協事務局：谷口事務局長、岡本次長、岩垣課長、梅村・廣瀬両主事

【概要】

- ・ 令和2年度の受診率は24.4%で前年度に比べ3.4ポイント減であった。受診者数全体のうち、内視鏡検査の実施割合は83.2%で、年々増加している。

X線検査の集団検診の要精検率7.0%、医療機関検診は8.3%（東部8.5%、中部11.8%、西部7.6%）だった。

- ・ 令和2年度胃がん検診発見がん患者確定調査最終結果報告があった。

確定胃癌は133例（一次検査がX線検査：車検診8例、施設検診1例、一次検査が内視鏡検査：124例）で、癌発見率は0.288%（東部0.280%、中部0.316%、西部0.285%）で、前年度に比べ、癌は72例減少した。

- ・ 「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」が一部改正されたことから、鳥取県においても指針に沿って「胃がん検診実施に係る手引き」の一部改正について協議を行い、改正案のとおり承認された。

挨拶（要旨）

〈渡辺会長〉

新型コロナウイルスの感染状況により、参集しての開催は困難と判断し、ハイブリッド開催とした。今回の胃がん部会が、冬の各部会の中で最後の開催となる。いずれの部会も令和2年度の検診実績や令和3年度の進行状況のご報告をいただいている。本県においては、令和2年のがんの75歳未満の年齢調整死亡率が改善された。引き続き対策を行っていききたい。本日は忌憚ないご意見をいただきたい。

〈磯本部長〉

本日はご出席いただき、感謝申し上げます。本来ならば、中部会場にて進行を行いたかったが、コロナの感染状況により、オンライン参加とさせていただいた。本日は議題が豊富にあるが、スムーズに進行したいと思う。

〈謝花委員長〉

本来ならば、中部会場にて出席したかったが、

コロナの状況によりオンライン参加とさせていただいた。前年度に続き、今年度も委員会が今回1回のみとなってしまったが、活発なご意見をいただきたい。本日は、よろしくお願いする。

報告事項

1. 令和2年度胃がん検診実績報告並びに令和3年度実績見込み及び令和4年度計画について (県健康政策課調べ) :

坂本県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐
〔令和2年度実績最終報告〕

対象者数(40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数)189,132人のうち、受診者数はX線検査7,738人、内視鏡検査は38,430人で合計46,168人、受診率は24.4%で前年度に比べ3.4ポイント減少した。受診者数全体のうち、内視鏡検査の実施割合は83.2%で、年々増加している。

このうち、40歳から69歳(国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法)では、対象者数76,814人、受診者数22,205人、受診率28.9%であった。

X線検査の要精検者数は555人、要精検率7.2%で、前年度より0.9ポイント減少した。精検受診者数473人、精検受診率は85.2%で前年度より1.2ポイント減少した。集団検診の要精検率7.0%(東部4.6%、中部8.8%、西部9.5%)。医療機関検診は8.3%(東部8.5%、中部11.8%、西部7.6%)だった。

内視鏡検査の組織診実施者数は978人、組織診実施率は2.5%で、東部3.0%、中部3.1%、西部1.9%であった。

検査の結果、胃がん138人(X線検査9人、内視鏡検査129人)、がん発見率(がん/受診者数)は、0.30%(X線検査0.12%、内視鏡検査0.34%)で、前年度に比べ、胃がん69人、がん発見率は0.09ポイント減であった。胃がん疑いは71人(X線検査0人、内視鏡検査71人)であった。

陽性反応適中度(がん/要精検者)はX線検査

1.6%で、東部1.6%、中部1.3%、西部1.9%である。また、内視鏡検査の陽性反応適中度はがんを組織診実施者数で割った率で求めたところ13.2%で、東部11.1%、中部15.2%、西部15.1%であった。

〔令和3年度実績見込み及び令和4年度計画〕

令和3年度実績見込みは、対象者数189,132人に対し、受診者数は48,022人、受診率25.4%の見込みである。また、令和4年度実施計画は、受診者数51,560人、受診率27.3%で計画している。

〔鳥取県保健事業団調べ〕：三宅委員

〔住民検診〕

令和2年度の受診者数6,746人で令和元年度に比べ約20ポイントの減少である。

そのうち、要精検者478人、要精検率7.1%(東部4.7%、中部8.7%、西部9.7%)で、判定4と5の割合は2.3%(東部3.4%、中部0.7%、西部2.8%)であった。

要精検者数に対してのがん発見率は1.7%(東部2.0%、中部1.3%、西部1.7%)であった。

受診勧奨は市町村より行われているが、精検結果未報告は16.5%で令和元年度に比べ約4ポイントも増加した。がん発見率0.12%。

初回受診者は739人で、要精検者は58人、要精検率は7.8%であった。判定4と5の割合は8.6%であった。要精検者数に対してのがん発見率は3.4%であった。

〔一般事業所検診〕

受診者17,939人のうち、要精検者は1,022人で、要精検率は5.7%で、判定4と5の割合3.2%で、要精検者数に対してのがん発見率は0.7%であった。判定4と5の精検結果未報告については、依然として精検結果未報告は32.6%と高い。がん発見率は0.04%である。

新型コロナウイルス感染状況により、住民検診は令和元年度に比べ受診者数が約7,700人も減少し受診控えがあったと思われる。一般事業所検診

は約600人増加している。

2. 令和2年度胃がん検診発見がん患者確定調査結果について：田中委員

確定胃癌は133例（一次検査がX線検査：車検診8例、施設検診1例、一次検査が内視鏡検査：124例）で、癌発見率は0.288%（東部0.280%、中部0.316%、西部0.285%）で、前年度に比べ、癌は72例減少した。

調査結果は以下のとおりである。

- （1）早期癌は105例、進行癌は28例であった。早期癌率は78.9%（東部85.5%、中部76.9%、西部73.1%）であった。
- （2）切除は58例で、内視鏡切除が70例であった。非切除例が5例であった。
- （3）性・年齢別では、男性90例、女性43例であった。40歳代1例、50歳代3例、60歳代24例、70歳代69例、80歳以上36例で、例年と同様に60歳代、70歳代の男性が多い。
- （4）早期癌では「Ⅱc」が55%を占めている。進行癌の肉眼分類は「2」が50%を占めている。例年通りの傾向であった。
- （5）切除例の大きさは2cm以下のものが60%を占め令和元年度の約50%に比べ、小さい癌が見つまっている。一方で5cm以上のものが16例認められた。
- （6）肉眼での進行度は、X線検査ではstage I Aが5例で71.4%、内視鏡検査ではstage I Aが96例で78.7%であった。Stage IVが内視鏡検査で3例見つまっている。
- （7）逐年検診発見進行癌は5例（東部1例、中部2例、西部2例）であった。各地区で症例検討を行っていただき、問題点等について検討していただく。
- （8）令和元年度検診発見進行癌の前年度検査結果を調査した。

令和元年度は13例のうち、異常なしは8例、慢性胃炎は3例であった。

3. 令和2年度各地区胃がん検診読影委員会の実施状況について

（1）車検診の読影状況について

読影会は、読影委員2名による画像観察機（ビューアー）を使用した読影を行っている。

東部：鳥取県保健事業団分は34回読影を行い、読影件数は4,327件で、要精検率4.3%、平均読影件数127件。中国労働衛生協会分は、読影件数115件で、要精検率3.5%、平均読影件数7件。症例検討会を1回開催。

中部：22回読影を行い、読影件数2,057件（藤井武親委員）で、要精検率が8.2%、平均読影件数94件。症例検討会は開催なし。

西部：28回読影を行い、読影件数は3,147件（大谷委員）。平均読影数112件、要精検率は7.9%であった。症例検討会を1回開催。

（2）医療機関検診の読影状況について

東部：鳥取市、岩美町、八頭町、智頭町の（尾崎委員）X線検査は検診機関ごとに指定された読影医師2名のダブルチェックにより読影を行っている。

鳥取市、岩美町、八頭町、若桜町、智頭町で行われた内視鏡検診については、平成21年度より東部胃がん内視鏡検診読影専門委員会を設置し、平成26年度より東部医師会館にて読影会を開催、週2回内視鏡検診読影専門委員2名で読影を行っている。

令和2年度の内視鏡検診件数は15,970件で、内視鏡の生検率は3.0%であった。読影回数186回。

中部：平成9年度より医療機関検診読影委員会を設置し、中部医師会館において読影委員2名で読影会を開催している。1市4町（倉吉市、湯梨浜

町、三朝町、北栄町、琴浦町の人間ドック分）で行われた検診の読影を中部医師会館で行うこととなった。

令和2年度実績は以下のとおり。

X線検査読影件数：35人 要精検率：8.6%

内視鏡検査読影件数：5,676人、内視鏡要精検率0.8%であった。

西 部：米子市、伯耆町、日吉津村、大山町
(大谷委員)

は、健対協胃がん検診読影委員会委員と同じ読影委員がメンバーで医療機関検診読影委員会を設置している。読影委員2名と検診医で読影会を行う。読影件数10,916件、読影回数は100回で、X線検査読影件数205件で要精検率8.3%、内視鏡検査読影件数10,711件で、組織診実施者173人、再検査52人、要治療23人、その他の疾病8,563人、内視鏡要精検率1.6%であった。

境港市は健対協胃がん検診読影委員会委員4名と済生会境港総合病院消化器科の医師で、境港読影委員会を設置。8月～2月までの間、済生会境港総合病院を会場に月1回の読影会を開催。原則として読影委員2名と検診医の計3名で読影（胃内視鏡検査フィルム・胃X線検査フィルム）を行っている。読影件数2,529件、読影回数は7回で、X線検査読影件数86件、内視鏡検査読影件数2,443件であった。

南部町、江府町の検診については、受託した医療機関内の健対協胃がん検診読影委員会委員で読影を行っている。

日南町については、平成29年度より江府町・南部町の受託医療機関で読影を行っている。

新たに日野町検診について、令和2年11月より日野病院医師により読影されている。

4. ピロリ菌検査の実績について

○北栄町、協会けんぽの取り組みについて、報告があった。

北栄町：

(令和元年度) 受診者数125人、尿中ピロリ菌抗体検査陽性8人、尿素呼気試験陽性6人、除菌治療実施者6人

(令和2年度) 受診者数100人、尿中ピロリ菌抗体検査陽性3人、尿素呼気試験陽性2人、除菌治療実施者2人

協会けんぽ：

(令和2年度) 受診者数1,388人、要精密検査214人、除菌治療実施者93人

○市町村と連携して行う胃がん対策事業について
(令和2年度から実施)

・対策型検診に伴ったリスク層別化検査

実施主体：市町村

対象者：当該市町村に居住する者

40歳～65歳（70歳）

検査方法：リスク層別化検査（胃がん検診と併せて実施する場合に限る）

・若年層に対する胃がん予防対策

実施主体：市町村

対象者：当該市町村に居住する者

20歳～39歳

検査方法：リスク層別化検査等、その他鳥取県健康対策協議会が認める方法

・実績：5町が実施。

受診者数388人、要精密検査158人、内視鏡検査受診者138人、除菌治療（予定）者48人

5. その他

(1) 75歳未満がん年齢調整死亡率について：

坂本県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐

国立がん研究センターが令和2年の75歳未満がん年齢調整死亡率を公表した。鳥取県の男女計の死亡率は、令和2年は68.6（前年79.7）で、前年の45位から23位に改善した。女性の死亡率は48.4（前年61.3）で前年44位から6位へ改善した。

胃がんの死亡率は7.9（前年11.3）で42位だった。

死亡率の増減については、鳥取県は母数が少ないため死亡率の変化が大きくなることから、単年の結果だけでの評価は困難であり、今後の推移を見ていく必要がある。

(2) 県の来年度当初予算について：

坂本県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐

新規事業として、がん予防でがん検診推進パートナー企業のうち、検診機関が出張対応を行わない従業員数が30人未満の小規模事業所等を対象とした県営職域がん出張検診の予算要求をしている。

(3) その他（共通資料）：

坂本県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐

○平成30年の全国がん登録のデータに基づくがん罹患の状況（令和3年6月公表）

- ・平成30年に新たにがんと診断された患者は全国で980,856人、鳥取県で5,001人（平成29年4,992人）。
- ・人口10万対のがん年齢調整罹患率は、全国で385.1、鳥取県は411.0（47位：ワースト1位）（平成29年402.7 39位：ワースト9位）。
- ・部位別にみると、男女計：①大腸②胃③肺④前立腺⑤乳房の順で罹患数が多くなっている。（前回と変化なし）

○国民生活基礎調査による飲酒量、喫煙率、平成28年国民健康・栄養調査（BMI、食塩摂取量、

歩数、野菜摂取量）

- ・コロナの感染拡大により調査が中止となっており、昨年と同じデータである。

協議事項

1. ピロリ菌抗体価の判定結果が陰性だった者に対する胃がん検診の受診勧奨について：

坂本県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐

昨年度の冬部会において、協会けんぽのピロリ菌検査で、陰性であってもピロリ菌感染リスクがあることを説明する必要があるとの意見をいただいた。これを受け、受検者に向けて、今後も定期的に胃がん検診（画像検査）を受けていただくように受診勧奨の文書を作成することとし、提示されたとおり、進めることとなった。

2. 胃がん検診実施に係る手引きの一部改正について：

坂本県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐

「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」が一部改正され、鳥取県においても指針に沿って「大腸がん検診実施に係る手引き」の一部改正することについて協議を行い、改正案のとおり承認された。令和4年度の検診から適用することとなった。

〈主な改正点〉

- ・3. 検診の対象者に「また、受診を特に推奨するものを40歳以上69歳以下の者とする。ただし、対象者のうち、受診を特に推奨する者に該当しない者であっても、受診の機会を提供するように留意する。」を追記する。
- ・5. 実施方法に、「（5）受診者へがん検診の利益、不利益の説明を行うこと。」を追記する。

委員からは、がん検診の不利益の説明のうち「過剰診断」の内容が受診者にはわかりにくいのではないかと、といった意見が出された。

胃がん検診従事者講習会及び症例研究会

日 時 令和4年3月5日（土）
午後4時～午後5時15分

開催方法 ハイブリッド開催

（現地参加＋オンライン参加）

①現地参加会場／倉吉未来中心セミナー
ルーム3 倉吉市駄経寺町212-5

②オンライン参加（Zoomミーティング）
ハイブリッド開催とし、倉吉未来中心
をメイン会場とし、Web会議システム
「Zoom」を使用しライブ配信をした。

出席者 180名（医師：180名）
（倉吉未来中心：31名、オンライン参
加：149名）

岡田克夫先生の司会により進行。

講 演

鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会胃がん
部会長 磯本 一先生の座長により、鳥根県環境
保健公社・総合健診センター 足立経一先生によ
る「*Helicobacter pylori*感染を考慮した早期胃癌
の内視鏡診断」の講演があった。

症例検討

鳥取県立厚生病院 野口直哉先生の進行によ
り、症例を報告していただいた。

中部症例（1例）：鳥取県立厚生病院

竹本和弘先生